

機友会は学生、OB・OG、教職員会員で構成され、卒業生の会費と寄付等により運営されています。

W

Waseda

M

Mechanical

E

Engineering

E-mail
Magazine
No. 21

2026年2月

Contents

- | | | | |
|---------------------|------|------------------------|-------|
| 1. 教員の研究室紹介 No. 13 | P. 2 | 4. 本村貢先生を偲ぶ | P. 9 |
| 細井 厚志教授 機械科学・航空宇宙学科 | | 鈴木 進補教授 機械科学・航空宇宙学科 | |
| 中垣 隆雄教授 総合機械工学科 | | | |
| 2. 宮川和芳教授の「新エネ大賞」受賞 | P. 5 | 5. 永田勝也名誉教授を偲んで | P. 10 |
| | | 小野田 弘士教授 環境・エネルギー研究科 | |
| 3. 指定寄付奨学生の集い | P. 6 | 6. OB・OG 便り「鄭 文哲氏を囲んで」 | P. 11 |
| 川本広行・弘子奨学金 | P. 6 | 7. サポート費納入いただいた方々 | P. 12 |
| 宮下尚大奨学金 | P. 7 | 8. 編集後記 | p. 13 |
| オリーブ・佐々木洋子奨学金 | P. 8 | | |



西早稲田キャンパス(理工キャンパス)明治門に設置された大隈重信侯の胸像
(2026年2月12日撮影)

研究室配属から始まった研究者への道

機械科学・航空宇宙学科教授 細井 厚志

私は学生時代から一貫して、材料の長期信頼性や耐久性に関する研究に取り組んできました。振り返ると、その原点は学部時代の研究室配属にまで遡ります。1999年4月に機械工学科に入学し、3年生の研究室配属では、当時「四次元的思考」というキーワードに惹かれ、山口富士夫先生の研究室を希望しました。が、配属されたのは川田研究室でした。人生とは不思議なもので、このご縁が結果として私の研究者としての道を切り拓くことになりました。

川田研で最初に経験したエンブラの夏期実験のテーマは、ゴルフパターのロフト角とボールの飛距離の関係を明らかにすることでした。アイゾット衝撃試験機の先端に、機械加工で作製したパター型ヘッドを取り付け、ストロボ写真を用いてゴルフボールの回転運動と飛距離を計測する、という実験を行いました。川田先生の趣味のゴルフをテーマにした実験でしたが、未知の現象を自分の手で確かめる面白さを実感したことを今でも覚えています。これが私にとって実験研究の第一歩でした。

卒業論文では、リニアモーターカーの荷重断熱支持材として用いられるアルミナ繊維強化プラスチック積層板を対象に、超高サイクル疲労特性における損傷発達機構の解明に取り組みました。当時の川田研では、B4が実験、M2が力学的評価を担当するペア制で研究が進められており、高度な力学解析で実験結果を評価する先輩の姿が格好良く見えました。「自分も実験現象を力学で説明できるようになりたい」との思いから、修士課程へ進学しました。

修士課程では、材料の破壊現象が破壊力学によって美しく整理できることに魅力を感じ、博士課程へと進学しました。博士号取得後は、名古屋大学で助教として研究に従事し、さらにシドニー大学では訪問学者として研究する機会を得ました。名古屋大学では研究テーマの斬新さや課題設定の重要性を、シドニー大学では取得した実験データの正確さ、再現性、ばらつき評価の重要性を学びました。そして早稲田大学では、新しい実験現象を力学的視点から原理・原則として理解することの大切さを学びました。これらの経験が、現在の私の研究活動の土台となっています。

少し前置きが長くなりましたが、現在私の研究室では、炭素繊維強化プラスチックの長期信頼性・耐久性を確保する研究、プラスチックと金属を直接接合する研究、金属材料に生じた疲労き裂を治癒する研究を主なテーマとして取り組んでいます。オーソドックスな実験が中心ですが、実験アプローチを少し工夫すると、これまで報告されていない新しい現象が見えてくることがあります。その現象を力学に立脚して理論的に説明し、原理・原則として整理し一般性を確立する、実験と理論の両輪で研究を進めることを研究室として大切にしています。

研究室を主宰する立場となり、次の世代の学生に如何に研究や学問の面白さを伝えられるかが、これからの私の大きな使命であると感じています。最後になりますが、機友会の諸先輩方、ならびに関係の皆様には、今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



中垣 隆雄研究室紹介

総合機械工学科教授 中垣 隆雄

グリーントランスフォーメーションにおいては、特に Hard-to-abate 産業でのエネルギーと物質生産のカーボンマネジメントが重要になります。中垣研究室では電気・熱・化学の相互変換においてエクセルギーを統一的な尺度として用い、System-Component-Material をシームレスにつないだ総合的な機械研究を展開しています。B to B 対象が多いため、競争的資金を獲得して大型のプロジェクト型研究を実施しています。

海水由来 Mg による CO₂ 固定化技術

(NEDO カーボンリサイクル事業、ササクラとの共同研究) 海水淡水化プラントから排出される濃縮海水 (かん水) から、石膏・芒硝・塩酸・食塩・塩カリ肥料など有価物を併産し、得られた酸化マグネシウムで CO₂ を固定化した WMaCS® (Waseda Magnesium-based Carbon Sequestration materials、ダブルマックス、商標第 6829796 号) を得る一連の工程を、広島県大崎上島の NEDO カーボンリサイクル実証拠点にて実施中です。WMaCS はボード材のほか、社会環境工学科の秋山研究室と共同でコンクリート応用製品も開発し、JST から STI for SDGs アワード 2025 奨励賞を受賞しています。



本人近影と WMaCS コンクリート



大崎上島実証拠点の設備

岩石風化促進によるネガティブエミッション技術開発

(NEDO ムーンショット事業、6 機関+11 再委託の共同研究) 研究者 70 名ほどの大きなプロジェクトをマネージャーとして牽引しており、岩石と場の特性を活用した風化促進技術 “A-ERW” の適用先の一つとして、橄欖岩や蛇

紋岩を用い、気固接触ハウスや湿式加圧ボールミルによって大気中 CO₂ の高速な工業的鉱物化法を三菱重工と共同で技術開発しています。社会実装として、技術研究組合を立ち上げ、数年以内に J-ERW (Enhanced Rock Weathering) クレジットとして市場取引を開始する計画です。



本庄キャンパスに設置中の風化促進ハウス



内部の設置機材

CO₂分離素材評価センター

(NEDO グリーンイノベーション基金事業、産総研からの再委託) 火力発電や工場などの集中排出源からの CO₂ 分離回収技術のコアとなる分離素材の標準評価プロトコルを開発しています。中立公正な公的テストセンターとして産総研に発足した JEC³M (Japan Evaluation Center for CO₂ Capture Materials) の一翼を担い、化学吸収液の基礎特性や加速劣化法などの標準化・技術開発に取り組んでいます。さらに、CCS (CO₂ Capture and Storage) による JCM (Joint Crediting Mechanism) と産業連関について、政治経済学部の有村研究室・社会科学部の鷺津研究室と外部資金を獲得して早稲田大学ならではの文理融合型の研究も実施しています。



本庄キャンパスに設置中の加速劣化試験装置



未利用熱の蓄熱輸送技術

(JST COI-NEXT・ERCA 事業、東京大学・高砂熱学との共同研究) 種子島において、製糖工場などから排出される 200℃以下の未利用熱を、ゼオライトへの水蒸気の吸・脱着による蓄熱・出熱サイクル材を用い、他の熱需要地の任意の時間で利用する蓄熱輸送技術“ゼオライトエコボイラ”を開発しています。品質機能展開による社会実装化について、経営システム工学科の棟近・下野研究室とも協働しております。

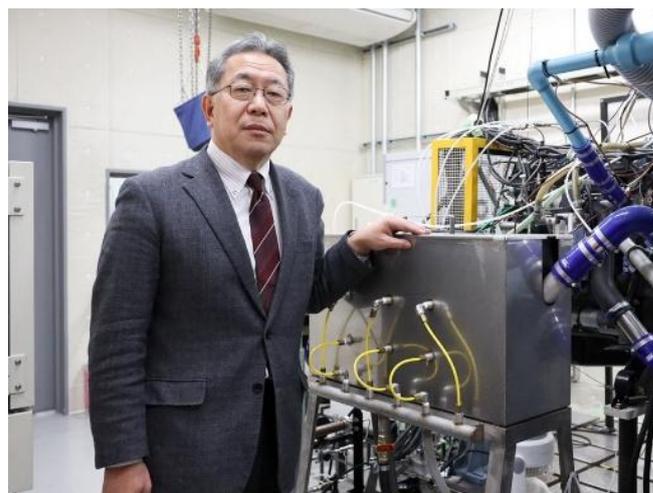
この他、水素還元製鉄 GREINS (NEDO グリーンイノベーション基金、JFE スチールからの再委託) に参画し、異業種連携による炭素バリューチェーンの技術経済分析を分担しています。

2. 宮川 和芳教授の新エネ大賞（経済産業大臣賞）受賞

機友会の副会長でもある宮川和芳教授（基幹理工学部 機械科学・航空宇宙学科）が、秋田県、東北小水力発電株式会社と共同で令和7年度「新エネ大賞」経済産業大臣賞（商品・サービス部門）を受賞されました。受賞の詳細につきましては、[こちら](#)をご覧ください。

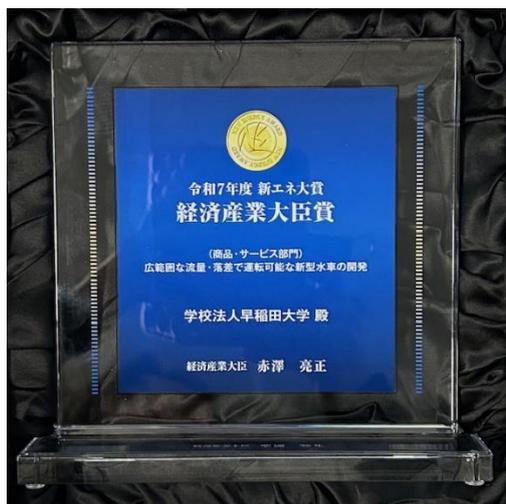
また、一般財団法人電力中央研究所（本社：東京都千代田区、理事長：平岩芳朗）、東芝エネルギーシステムズ株式会社（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：島田太郎）、学校法人早稲田大学（東京都新宿区、理事長：田中愛治）、国立大学法人信州大学（長野県松本市、学長：中村宗一郎）は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、「NEDO」）が公募した、国内初となる一般水力発電の調整力強化に向けた「電源の統合コスト低減に向けた電力システムの柔軟性確保・最適化のための技術開発事業（日本版コネク&マネージ2.0）＊／研究開発項目3-2 水力発電の柔軟性向上のための技術開発」（以下、「本事業」）に応募し、採択されたため、この

ほど技術開発に着手しましたので併せてお知らせいたします。本事業は2028年度末まで行います。（＊早稲田大学の研究代表者は理工学術院・宮川和芳教授です。）



宮川 和芳教授（実験室にて）

本事業の詳細につきましては、[こちら](#)をご覧ください。



- 1) [基幹理工学部・宮川 和芳教授が新エネ大賞（経済産業大臣賞）を受賞 - 早稲田大学 理工学術院](#)
- 2) [国内初となる一般水力発電の調整力強化に向けた技術開発に関する NEDO 公募事業の採択および技術開発着手について - Global Research Center \(GRC\) 早稲田大学 研究活動](#)

3. 指定寄付奨学生の集い

昨年12月22日に「総長招待 指定寄付奨学生の集い」が開催されました。奨学生として選ばれ、この集いに参加された方々に研究や将来の抱負等について語っていただきました。

< 川本広行・弘子 奨学金 >

門井 洸衛 (かどい こうえい)

基幹理工学研究科 材料科学専攻

博士後期課程1年 鈴木進補研究室

【奨学生に選ばれた心境】 この度は奨学生に選出いただき、身の引き締まる思いです。私の挑戦を後押ししてくださるご支援に深く感謝し、研究活動へより一層邁進する覚悟です。

【現在行っている研究の内容】 現在私は、国際宇宙ステーションの「静電浮遊炉」を用いた微小重力実験と、組織の3次元解析・数理シミュレーションを融合した研究を行っています。金属3Dプリンタの課題である「強度異方性」の克服に向け、添加粒子を核とする「ヘテロ凝固」機構を解明し、結晶粒微細化を予測・制御する「統一的理論式」の構築に挑んでいます。

【将来の抱負・夢】 将来は、この知見を月面資源の現地利用(ISRU)技術へ昇華させ、製造インフラの構築現場を陣頭指揮する「スペシャリストとしての宇宙飛行士」になることが夢です。いただいたご支援に報いることができるようにも、人類のフロンティア拡大に貢献できるリーダーを目指します。



< 川本広行・弘子 奨学金 >

藤原 裕己 (ふじはら ゆうき)

基幹理工学研究科 機械科学・航空宇宙専攻

博士後期課程1年 吉村浩明研究室

川本広行・弘子奨学金によるご支援をいただき、誠にありがとうございます。私は人工衛星の軌道設計と姿勢制御に関する研究を行っており、特にテザー衛星と呼ばれる、数キロメートル以上の長さのテザー(ひも)で複数の物体をつないだ衛星システムに着目しています。これはいわば宇宙エレベーターの一部を切り取ったようなもので、ロケットを一部代替する輸送手段としての活用などが期待されています。ただ、このような巨大な宇宙構造物の構築と運用には課題も多く、現時点では実用化には至っていません。

私は将来のテザー衛星システムの実現のため、特に理論面から研究を進める必要を感じ、博士課程への進学を決断しました。金銭面に関しては不安もありましたが、奨学生に採用いただいたことをはじめ大学の支援により、

研究に集中して取り組むことができ、大変感謝しております。研究者として宇宙開発の発展に寄与するべく、まずは博士課程を通して研鑽を積んでいきます。



< 宮下尚大 奨学金 >

玉山 康次郎 (たまやま こうじろう)

創造理工学部 総合機械工学科

石井裕之研究室 4年

生活空間委ロボットがあふれる未来に向かって

このたびは宮下尚大奨学金にご選出くださり、誠にありがとうございます。温かいご支援により、経済的な負担が和らぎ学業により集中することができました。心より感謝申し上げます。

私は人間の感覚運動制御の情報処理構造を規範として未知な状況にもその場で動作を生成・獲得できるような制御系アーキテクチャに関する研究を行っております。従来のロボットはあらかじめ決められた条件の中でしか安定して動作することができず、環境の変化や想定外の外乱にたいして柔軟に対応することが困難でした。一方で人間は、視覚や体性感覚など複数の感覚情報を手がかりに、自身の姿勢や周囲の状況を即座に把握し、多少の失敗や揺らぎを許容しながら動作を調整しています。このような人間の柔軟な感覚運動制御のあり方に着目し、それを工学的に抽象化・実装することが私の研究の目的です。



私は1900年代に想像された“人間の生活空間にロボットがあふれる未来”を夢見ています。近年飲食店などで少しずつロボットが私たちの日常生活においてもみられるようになってきました。私の研究が少しでもその役に立つことを信じてこれからも努力してきたいと思います。

< オリーブ・佐々木洋子 奨学金 >

五十崎 孝輔 (いかざき こうすけ)

基幹理工学部 機械科学・航空宇宙学科

柳尾朋洋研究室 4年

この度は私をオリーブ・佐々木 洋子奨学金の奨学生に選んでいただき誠にありがとうございます。設立者、寄付者の故佐々木洋子様及び機友会の皆様に感謝申し上げます。

私の所属している研究室では学生自身が研究したい題材を見つけ、決定する必要があります。私は卒業研究としてマクスウェル・ブロッホ方程式という方程式からレーザーの性質を考えてみたり、レーザーの威力を上げる方法を考えてみたりといったことをしています。独力で研究テーマを見つけ、研究手法を考案し、一定以上の水準で何とか纏め上げる。この一連の研究活動の難しさとその中の面白さを味わっています。

大学卒業後は大学院には進学せず、エアラインパイロットになるための勉学と訓練に励むことになっています。幸運にも幼き頃よりの目標を達する機会を得ることができました。

頂いたご支援への感謝の念を忘れず、日本の空、世界の空で威風堂々活躍できる人材となるべく誓って奮励努力いたします。最後に改めて、ご支援に感謝申し上げます。



< オリーブ・佐々木洋子 奨学金 >

大谷 卓輝 (おおたに まさき)

創造理工学部 総合機械工学科

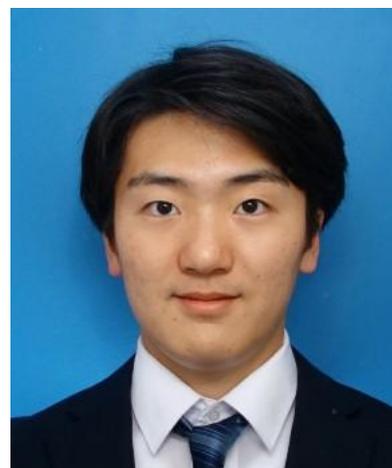
菅野重樹研究室 4年

この度はオリーブ・佐々木洋子奨学金の奨学生に選んでいただき誠にありがとうございます。この奨学金を設立された故佐々木洋子様、そしてご支援くださいました機友会の皆様に深く感謝申し上げます。

私の所属する研究班では、人型ロボットでの介助タスクを研究しています。その中で私は、人型ロボットによる歩行介助を想定し、深層学習を用いて人間の転倒予測及び転倒防止を目指して研究しております。本年は転倒予測システムの構築に注力し、今後は歩行介助中での活用を目標としています。夏には大阪・関西万博でのデモも経験し、学びの多い忙しい一年でした。

私は、社会全体でロボットを活用することで、少子高齢化による人手不足や介護者不足の解消、そして社会全体の成長速度の向上を目指したいと考えています。

まだまだ未熟者ですが、先生や先輩のご指導のもと、日々懸命に研究に励み、皆様のご期待に応えられますよう、精進してまいります。



4. 本村 貢先生を偲ぶ

機械科学・航空宇宙学科 鈴木 進補

「美しい社会を！ ～愛、やさしさ、よろこび～」

早稲田大学名誉教授 本村貢先生は、2025年10月21日に享年83歳で逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

本村先生は、本学機械工学科ならびに機械科学・航空学科にて、2012年3月のご定年まで40年以上にわたり、教育・研究にご尽力されました。金属加工を専門とされ、学内はもとより学協会ならびに産業界を先導する立場でご活躍になり、令和二年秋の瑞宝中綬章受章をはじめ幾多の荣誉に輝かれました。詳細は、『軽金属』第76巻2号をご覧ください。



故本村 貢先生の近影

本誌では、研究室学生として本村先生と一緒にした日々を、多くの思い出の中から学科や研究室に関係する幾つかを振り返りつつ、先生のお人柄を偲びたく存じます。

本村先生は常にご多忙でありながら、終始きびきびとした所作でいらっしゃいました。先生は歩くのが大変速く、59号館東端の研究室から長い廊下をともに話しながら歩いていると、西端に着く頃には息が上がるほどでした。

研究室でのゼミや打ち合わせの最中に電話が入っても、先生は受話器を取りながら学生への指摘を続けておられました。外部の方も、同時にいくつものことをこなされる先生ならではの、慣れたご様子でした。

私が学生の時に、本村先生は機械工学科主任に就任されました。学科主任は責任の重さゆえに教員から敬遠されがちな職務ですが、先生は誇りをもって意欲的に務めておられました。「愛、やさしさ、よろこび」を常日頃からおっしゃり、次世代の人への思いやりを非常に重んじていました。学生との飲み会はいつも積極的にご参加され、学生たちの馬鹿話にも付き合っって場を盛り上げてくださいました。先生は手料理を振る舞われ、ゴルフや旅行、ご自宅へのご招待などを通じて、学生たちに楽しい思い出を残してくださいました。

教育は肯定的であるべきとの信条 (Yes エデュケーション) をお持ちでした。「いいですねえ～」 「グウですね～」 「アイシーアイシー (I see, I see.)」は、卒業生の胸に今なお残る、親しみ深い先生ならではの口癖でした。

勉学・研究には厳しく、報告会や発表会も頻繁に行われたため、学生たちは大いに鍛えられ、その多くが産業

界・学術界で主導的立場として活躍しています。Yes エデュケーションにも関わらず、学生たちは至らぬ点も多く、「ダメですねえ〜」と先生に何度も言わせてしまう日々でもありました。ゼミ中、発表が要領を得ない折には、先生はたばこのフィルターを噛みしめておられ、そのお姿に接するたび、身の引き締まる思いをしました。

以下は私の個人的な思い出です。修士進学の際、推薦枠は5名でしたが、私は資格者中7番目でした。それでも三年次の取り組みをご評価くださり、推薦していただきました。博士2年時に、宇宙飛行士に応募したいと相談したところ、大変親身に応援してくださいました。教員になった後も、多くの支援を賜りました。在学中より本村先生から言われ続けていた「アンタが考える美しい社会をつくりなさい！」に答えられるよう努めてまいりました。今の私の取り組みに対して本村先生が「グウ〜ですねえ〜」とおっしゃるのか、「ダメですねえ〜」とおっしゃるのかは分かりませんが、せめてものご恩返しとの思いで、次世代の人たちが活躍できるよう微力を注いでおります。

本村貢先生より生前賜りましたご指導に、心より感謝申し上げます。



筆者

5. 永田 勝也名誉教授を偲んで

環境・エネルギー研究科 小野田 弘士

永田勝也名誉教授は、2025年12月31日、享年81歳をもって永眠された。

筆者は、大学3年時の1999年度に永田研究室に配属され、2000年度に卒論指導を賜った。この2000年は「循環型社会元年」と言われ、永田先生は数々のリサイクル法の制定に尽力された。また、同年6月6日には国内有数の不法投棄問題として知られる「豊島問題」の調停が成立している。筆者が研究室に配属された頃には、既に環境工学分野の「第一人者」であった先生と、筆者は最後の四半世紀をともに過ごすこととなった。大学4年のとき、筆者は環境配慮設計（DFE）に関する研究テーマを扱っており、永田先生が座長を務める委員会に陪席する機会を得た。その折に接した、永田先生の舌鋒鋭い言葉、資料やデータを瞬時に理解する深い洞察力、そして議論の本質に迫る迫力は、学部時代の授業からは全く想像できないものであり、衝撃を受けた記憶がある（その後、卒論・修論指導を含めて、それを



故永田 勝也先生の近影

幾度となく実感することとなる)。永田先生は、最後の謝恩会（2015年3月）の際、軌道に乗り始めた「自動車リサイクル法」、豊島問題のフォローアップ、そして、象徴的な負の遺産といえる「PCB問題」の3点をやり遂げたいと、強い決意を口にされていた。退職後は「奥様との時間を大事にしたい」というお言葉から、筆者からの連絡は極力控えていた。

2025年12月2日、久しぶりに永田先生から入電があった。PCB問題の引継ぎに関する要件であった。12月19日に面会する約束を交わしたが、同日の未明に体調が優れず打ち合わせに参加できないというメールを頂戴した。その文面には「最期」を思わせる言葉が含まれており、嫌な予感がした。

12月23日、意識を失ったとの連絡を受け、病院で対面することとなった。26日に、奥様から「意識が戻った」との連絡があり、翌日、病院に駆けつけた。寝たきりで言葉もうまく発声できない状況ではあったが、大学4年のとときの衝撃が蘇る迫力で永田先生の最後の「指導」を受けた。29日に再び訪問した際には小康状態になることを願っていたが、31日に息を引き取られたとの報が届いた。

今思えば、意識が回復したのは奇跡だったように思う。後日、PCB問題の関係者との話の中で、永田先生が最期まで取り組まれていた壮絶ともいえるエピソードを知ることになった。その内容の機微さから、詳細を述べることはできないが、永田先生の「生き様」を再認識した。最期まで現役の研究者・実践者であり続けた。豊島問題をはじめさまざまな場面で「主体的な関係者が協働して新たな関係と価値観をつくりながら目標を達成する『共創』の理念」の重要性を説いておられた。永田先生の功績は、必ずしもすべてが公式な記録として残っているわけではない。永田先生が遺されたものをまとめ上げ、未だ実現していない「最終講義」として後世に伝えることこそを、筆者自身のミッションであると考えている。

永田先生、長い間、本当にお疲れ様でした。今は、心ゆくまでゆっくりと休んでください。



筆者

6. OB・OG 便り

鄭 文哲氏を囲んで

大聖 泰弘(名誉教授)

昨年12月2日(土)、本学機械工学科卒業で台湾在住の鄭 文哲氏が来日されたのを機会に、機友会有志の方々とともに懐かしくも楽しい懇談と昼食のひと時を過ごしました。とりわけ、機友会相談役の眞下 進氏とは1963年卒業の同期で旧知の間柄とのこと。

鄭氏は、卒業後、母国に戻って1973年に「世紀貿易」を創業され、FANUCをはじめとする各種の工作機械やロボット等の輸入・販売を幅広く手掛けておられます。その傍ら、台湾稲門会の代表や本学の商議員を長く務め、両国の交流に尽力してこられました。また、ご息子の鄭 世維氏は1998年に故永田勝也名誉教授の研究室を卒業し、孫の翔安さんは、草鹿 仁教授の研究室の修士2年生という3代にわたる早大機械ファミリー。

鄭氏は 86 歳とは思えない意気軒高な早稲田魂をお持ちで、並々ならぬ愛国心と国の将来の発展に対する夢を熱く語られました。さらに、「七歳までは日本人でした」とする過去の両国の歴史や、母国が置かれた厳しい現状を伺うにつけ、今後とも良き隣人として両国の交流と協力を深めることの大切さを再認識した次第です。



＜55 号館竹内ラウンジにて＞

（後列左から、大田邦博氏、谷山雅俊会長、浅川基男名誉教授、筆者
前列左から、鄭 文哲氏、眞下 進氏）

7. サポート費を納入いただいた方々

機友会事務局

2025 年 1 月から 2026 年 1 月までの間に、下記の方々から総額 24,000 円のサポート費をいただきました。厚く御礼申し上げます。

なお、2024 年 10 月より、会員管理システム (https://waseda-kiyukai.jp/member_management) からサポート費納入ができるようになりました。今後とも皆様方の更なるご支援をお願いいたします。

機友会へご支援を頂いた方々（敬称略）

氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年
高橋 秀知	1984	小岩 一	1990	眞下 芳隆	1966	高西 淳夫	1980

ロボステップへご支援をいただいた方（敬称略）

氏名	卒年
高橋 秀知	1984

8. 編集後記

西早稲田キャンパス（理工キャンパス）の明治通りに面した門の背後に大隈 重信侯の胸像（本誌の表紙）が設置されているのをご存じでしょうか？ 1993年に55号館（理工学総合センター・研究棟）が竣工した際に設けられたものです。この胸像の脇には、1913（大正2）年に行われた本学の創立30周年記念祝典において、総長大隈重信（当時）が宣言された「教旨」を刻んだ銘板が添えられ、「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」が高らかに謳われています。明治門を通られる際、一度ご覧ください。



さて、2月には卒業論文と修士論文の審査が行われ、さらには理工学術院の入学試験が実施されました。そして、3月には卒業証書や修了証書を携えた諸君が学窓を巣立ち、キャンパスは一時期静寂に包まれますが、4月には、新入生で賑やかに溢れかえります。卒業生や新入生の情報源としてもアピールするメールマガジンを目指して参りますので、引き続きご支援やご提案の程、宜しく願い申し上げます。

機友会事務局（開室日：月・木曜日 10時～16時）

住所： 〒169-8555 新宿区大久保 3-4-1

理工 55号館 S棟 402

電話/FAX： 03-3205-9727

E-mail： contact@waseda-kiyukai.jp

機友会 HP： <https://waseda-kiyukai.jp/>

会費納入のお願い

会員管理システムを利用して様々な
決済方法により会費の納入が行える
ようになりました。



機友会会員管理システム：

https://waseda-kiyukai.jp/member_management